

M-6-1-23

資料名 昭和十年十一月二十二日於東京開會
第一回日本海商業委員會議事録

出所 日滿實業協會

作成年 19351227

寄贈者 編者

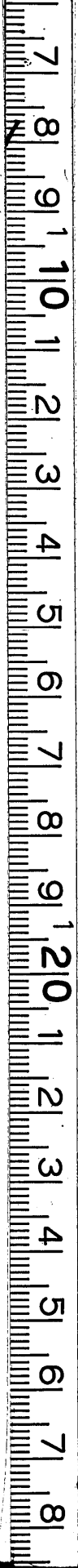
受入

注記 41P 22×15cm

昭和十年十一月二十二日於東京開會

第一回日本海商業委員會議事錄

日滿實業協會



第一回日本海商業委員會議事錄

目次

一、出席者	一頁
臨席官	
委員	
二、議長の挨拶	六
三、祝電披露	八
四、経過報告	九
五、内閣總理大臣祝辭	一〇
六、議事要項の決定	一一
七、北鮮對日本海方面貿易振興方策	三〇
八、分科規定の制定	三二
九、分科委員の選任	三六
附	

一、日本海商業委員會規定……………四二

二、日本海商業委員會委員……………四四

三、昭和十年度日本海商業委員會特別會計收支豫算……………四九

第一回日本海商業委員會議事錄

昭和十年十一月二十二日午後二時三十分開會

於東京商工會議所

一、出席者 (順序不同)

臨席官	總理大臣代理官	陸軍省軍務局	海軍省軍務局	同	對滿事務局殖產課長	拓務省商工課長	大藏省理財局事務官
橫溝光暉殿	河田中佐殿	濱田少佐殿	藤尾少佐殿	竹內德治殿	江口親憲殿	梅北末初殿	

商工省貿易局事務官	德永久次殿
同 工務局事務官	鈴木義雄殿
同 商務局事務官	豐田雅孝殿
遞信省管船局事務官	窪田順三郎殿
鐵道省運輸局事務官	高須俊一殿
外務省東亞局事務官	小澤成一殿
福井縣事務官	渡邊榮殿
鐵路總局	寺坂亮一殿
委員	
函館市市長	坂本森一君
函館商工會議所會頭	岡本康太郎君
同 理事	小林貞一君
小樽市市長	板谷宮吉君
小樽商工會議所副會頭	松川嘉太郎君

同 理事	友田孝治君
清津商工會議所副會頭	國行健輔君
雄基商工會副會長	鹽見峰次君
新潟市市長	小柳牧衛君
新潟商工會議所會頭	白勢量作君
同 副會頭	小澤國治君
同 理事	塚野俊郎君
高田商工會議所會頭代理	藤本君
直江津商工會議所會頭	高橋喜六君
富山縣對岸貿易拓殖振興會常議員	宮崎和清君
富山商工會議所會頭	金岡又左衛門君
北陸汽船株式會社社長	石原正太郎君
伏木町町長	堀田勝文君
新湊町町長	卯尾田毅太郎君

東岩瀨町長	佐渡傳二君
酒田商工會議所會頭	荒木幸吉君
高岡市市長	堀木幸吉君
高岡商工會議所理事	越野長二君
敦賀商工會議所會頭	那須吉兵衛君
同議	船野德次郎君
金澤商工會議所理事	宮田治三郎君
七尾町長	春木利衛門君
秋田商工會議所會頭	辻兵吉君
鶴岡商工會議所常議員	菅澤久五郎君
福井商工會議所副會頭	鎌田藤右衛門君
同理事	吉田耕造君
名古屋商工會議所理事	三浦一君
門司商工會議所副會頭	久野勘介君

橫濱商工會議所理事	園田寬君
大阪商工會議所理事	武田鼎一君
大連商工會議所理事	長永義正君
朝鮮商工會議所理事	伊藤正懃君
東京商工會議所理事	木村增太郎君
日本商工會議所副理事	依田信太郎君
北日本汽船株式會社	野村治一良君
日本海汽船株式會社	大西源之助君
酒田商工會議所理事	伊藤信成君
高田商工會議所理事	上野周吉君
小濱町長	田中信藏君
新潟港振興會	內山信吉君
長岡商工會議所理事	池文一君
哈爾濱日本商工會議所會頭	加藤明君

新京商工會議所會頭	石崎廣治郎君
本協會副會長	結城豐太郎君
本協會監事	中川正左君
本協會常務理事	賀田直治君
本協會常務理事	中野金次郎君
本協會常任幹事	篠崎嘉郎君

二、議長の挨拶

○議長(副會長結城豐太郎君) 御挨拶を致します。郷會長は據らない差支がありますので、私此席を汚します。閣下並に諸君、本日茲に第一回日本海商業委員會を開くに當りまして、私より一言御挨拶を申し上げますことは甚だ光榮とする所であります。來賓各位には目下非常に公務御多端なる折柄にも拘らず、御臨席を辱ふ致しまして、特に弊會の爲に御訓辭御訓話を賜はりますことは、洵に有難く厚く御禮を申し上げます。又委員諸君に於かれましては、御多忙の折柄内地各地は固より、遠く滿洲、朝鮮、北海道地方よりも態々御參會下さいまして、今日此の第一回委員會を開催致しまして、種々御

協議を願ひ、各位の御援助と御協力に依りまして、本委員會の第一步を踏出すことに相成りました事は、私共の衷心欣幸とする所でありまして、感謝に堪へない次第であります。申すまでもなく日滿間最短距離の徑路に依る連絡の實施と云ふことは、國策上重大なる意義を有するのでありまして、之に關する諸施設とか運用方法の如何と云ふことは、非常に重要な關係を有つ次第であります。此問題に付きましては關係當局に於かれまして、固より深く留意せられ、既に部分的には實行に移された事柄もあり、今後引續き御研究を重ねられ御計畫を樹てらるゝこと、拜察するのであります。我が日滿實業協會に於きまして、其方面の事情に通せらるゝ方々の御集りを願つて、慎重なる調査研究を積み妥當なる方策の立案に資したいと存じまして、關係諸官廳を始め各方面の御諒解の下に本委員會を設置致しました次第であります。併しながら此事たるや現下重要問題たると同時に、甚だ難かしい實際問題でありまして、關係御當局の御援助御指導と委員各位の御協力御熱誠に俟つに非ざれば、到底其目的を達成することが出來ないのであります。どうか皆様方の御指導御盡力に依り所期の目的を達したいと思ふのであります。此上共宜しく御願致します。甚だ簡單ではありまするが之を以て私の御挨拶と致します。(拍手)

三、祝電披露

○常任幹事(篠崎嘉郎君) 電報が参つて居りますから一寸御紹介致します。

朝鮮咸鏡北道知事 竹内健郎氏より

「日本海を中心とする日滿貿易促進の爲め委員會を開催せらるゝことは洵に慶賀に堪へず。遙に御成
功を祈る。」

羅新商工會長 河野九郎氏より

「委員會の成立を祝し併せて各位の御努力を祈る。」

此二通であります。其他の敦賀町長、朝鮮郵船會社社長から、今日己むを得ない事故の爲に出席が出来ないから宜しく頼むと云ふ電報と、朝鮮總督府の殖産局長から日本海商業委員會には事務の都合上、遺憾ながら係官派遣致し難きに付惡しからず御諒承を乞ふ。滿鐵鐵路總局から、貴協會に對し滿鐵東京支社より何分の回答がある筈だから、是にて御諒承を乞ふと云ふ電報が参つて居ります。

○議長(副會長結城豐太郎君) 是より經過報告を幹事から致させます。

四、經過報告

○常任幹事(篠崎嘉郎君) 本年八月上旬富山縣對岸貿易拓殖振興會長、富山商工會議所會頭、並に新潟商工會議所會頭より、相前後しまして、日本海を中心とする日滿貿易發展策に就き盡力方申出が有りましたので、關係諸官廳當局の御内意をも伺ひ、更に北鮮地方商工團體、鐵路總局、滿鐵、北陸地方諸團體等とも下打合を遂げまして、大體の御諒解を得まして、九月二十六日本協會の理事會に於きまして、正式に決定致し、御手許に差上げてあります日本海商業委員會規定が制定されたのであります。此規定に基きまして九月三十日に關係諸官廳に御指導御後援方を御願しますと同時に、關係諸方面の團體代表者に對しまして、委員を御委嘱申上げました所、幸に各位の御快諾を得たのであります。斯くして、諸般の準備を急ぎ十月二十八日第一回委員會開會の通知と共に、日本海商業委員會重要項案を關係諸方面に發送致し、十一月四日日滿最短距離接續に依る日滿貿易の發展に關する基礎調査事項と題する調査項目十箇條を示しまして、關係各方面に資料提供方を懇請しました所、滿鐵、朝鮮總督府、雄基商工會、敦賀商工會議所より既に有益なる資料が到着してゐるのであります。又同月五日には日滿最短距離接續實施方法の原則に關し、案を具して關係諸官廳當局の御指示を仰いだの

であります。斯くして本日茲に第一回委員會の開催を見るに至つたのであります。

序ながら申上げて置きますことは、本委員會の豫算に關する件であります。御手許に届けてあります豫算は昨日の總會に於て決議されたのであります。此の經費は豫算面上明年三月までの經費となつて居るのでありますが、其實は明年七、八月頃まで支へ得る見込でありまして、それまでには本委員會の仕事も完了させたいと考へて居る次第であります。隨て寄附金の如きも繼續費としないで、一時金として御願したやうな譯であります。以上。

○議長(副會長結城豊太郎君) 是より内閣總理大臣の御訓辭を戴きます。

五、内閣總理大臣祝辭

○内閣總理大臣代理官横溝光暉殿 今日日本委員會に對し、總理大臣が親しく出席致しまして、皆様の御顔を拜見することを希望して居りましたのでございますが、據らない政務の爲に參ることが出来ませぬので、私が總理大臣の祝辭を代讀致します。

祝 辭

日滿兩帝國ノ不可分ノ關係ニ立脚シ兩國實業家ノ隔意ナキ融合提携ヲ促進シテ滿洲國ニ於ケル經濟

建設ニ協力シ兩國諸般ノ經濟提携ヲ實現スルノ途ヲ講ジ以テ兩國ノ共存共榮ヲ圖ルノ趣旨ヲ以テ曩ニ日滿實業協會ノ結成ヲ見タルガ同協會ハ今回日本海商業委員會ヲ設置シ日滿最短距離接續ノ實施ニ伴フ日本海ノ經濟的價値ノ研究及利用方法ヲ研究シ案ヲ立ツル所アラムトス誠ニ機宜ヲ得タル企劃ト謂フベシ本日其ノ第一回委員會ヲ開催スルニ當リ特ニ祝辭ヲ贈リテ精勵克ク其ノ成果ヲ收メラレムコトヲ切望スト云爾

昭和十年十一月二十二日

内閣總理大臣 岡 田 啓 介

六、議事要項の決定

○議長(副會長結城豊太郎君) 御臨席になつて居ります方々の御訓話は更に他の機會に譲りまして、是より議事に入りたいと存じます。御手許に差出して置きました日本海商業委員會議事要項案の御決定を願ひたいと思ひます。

日本海商業委員會議事要項(案)

一、設置ノ目的

日滿最短距離接續ノ實施ニ伴フ日本海ノ經濟的價值ノ研究及利用方法立案

二、研究ノ範圍

日滿最短距離ノ接續ハ日滿經濟ノ一體化ヲ目的トスル經濟國策ノ基本條件テアル、從テ本委員會研究ノ範圍ハ國策的意義ヲ有スル部門ニ限り行ハルルヲ至當トス

三、研究項目

- (1) 日本海經由貨物海陸運賃及附帶陸上小運送賃其他諸掛經費ノ低減ヲ目的トスル研究
- (2) 日滿物資ノ交易ヲ容易ナラシムヘキ商取引及金融機關ノ整備ニ關スル研究
- (3) 同上ノ見地ニ基ツク關稅、通關手續其他之レニ附帶スル研究
- (4) 日滿最短距離接續ノ實施ニ伴フ日本海漁業及同加工業發展方法ニ關スル研究
- (5) 同上諸工業、就中滿洲產原料ニヨル製造工業ノ新設並既設諸工業ノ發展策ニ關スル研究
- (6) 日滿最短距離接續ノ實施ニヨル既存制度ノ改廢又ハ新設ニ關スル研究
- (7) 同上ニ伴フ物資移動徑路ノ變化並ニ新商品ノ出現ヲ促進スルコトヲ目的トスル研究

四、協議方法

イ、資料ノ蒐集

- 一、關係官廳及民間機關ノ提出セルモノ
- 二、會員ノ提出セルモノ
- 三、委員會ノ調査セルモノ

ロ、研究

- 一、分科委員ノ選定
- 二、専門主査ノ囑託
- 三、分科委員會
- 四、總會
- 五、進言、請願、陳情

以上

○二十四番(高岡商工會議所理事越野長二君) 此議事要項案第二項の研究の範圍に於きまして、「日滿最短距離の接續は日滿經濟の一體化を目的とする經濟國策の基本條件である、從て本委員會研究の範圍は國策的意義を有する部門に限り」と云ふのが一寸呑込めぬのであります。是は此研究の範圍は最短距離の基本條件に屬したることだけを範圍とするのでありますか又國策的意味の國策と云ふものはど

う云ふことを指すのでありますか、御教示を願ひたいのであります。それともう一つは、此商業委員会は日滿實業協會に加入して居られない御方も這入つて居りますが、實業協會の主催であると云ふ意味からしまして、豫算の削減とか増加とか修正とか云ふことは、絶対に商業委員會は意見を述べたりすることは出来ないものであるか、それを一寸伺ひます。

○常任幹事(篠崎嘉郎君) 此議事要項案は先程私が報告に述べました通りに、此草案を各方面に送りまして、御意見に依つて御訂正を願つたのであります。其訂正に依りまして更に本日の委員會で御協議して戴くことに致しますと云ふ書面で、各方面に送つた筈であります。所が研究項目の一に屬する項目を一つ變へたらどうかと云ふことが來たゞけで、其他の點に於ては何れからも何等修正の御意見がなかつたのであります。それで研究項目第一だけを訂正しまして、本日茲に上程した譯であります。「國策的意義を有する部門に限り」と云ふことが意味が能く分らぬと云ふことであります。大體草案者として地方問題もあるだらうと思ひますが、此委員會では地方的の問題ではなくして、國策的意義を有する部門に限つて研究するのが本當でなからうか、斯う云ふ大體の意味合であります。それから豫算に關することに付きましたは、昨日總會で決定されましたが、私共としまして、あれを動かしていゝとか悪いとか云ふことは、一寸返答し兼ねます。併し豫算は先程申しました通りに

三月までと云ふことになつて居りますけれども、事實は三月には繰越すことになりまして、豫算の實際は相當變更されて行くものと思はれます。必要に應じて多少變更されても、協會の方から苦情の出る様なことはないと思ひますけれども、私が協會を代表して斷言する譯には參りませぬ。

○一番(函館市長坂本森一君) 一寸第一の設置の目的の意味を伺ひたいのであります。「日滿最短距離接續の實施に伴ふ」此文句は日滿の最短距離と云ふ字句から致しまして、所謂内地と滿洲との間の最近の距離一點だけに限定しようと思はれるのであります。寧ろさう解釋するのが適當であるかの如くに思はれるのですが、此設置の目的を日滿の間の距離を短縮すると云ふやうな趣意に變更することが出来ないものでありませうか、それを伺ひたいと思ひます。

○常任幹事(篠崎嘉郎君) 是は案でございますから、如何様にも御修正して戴きたいと思ひます。

○二十四番(高岡商工會議所理事越野長二君) 第二に付て只今篠崎君から御説明がありました。一寸まだ分り悪いのであります。是は私が愚鈍であるから分らないのだと思ひますから、後で實際問題に付て又御意見を伺ふことに致します。豫算案に付きましたどちらとも言ふことが出来ないと思ひますが、話であります。あなたが分らなかつたら、此處に議する者は尙更分らないのだらうと思ひますが、例へば委員會に於て或事を決議されました、もつと豫算を増加しなければならぬと云ふことが出來ま

しても、之を殖やすことが出来ないか。色々各關係方面の寄附に依つてやつてありますから、或縣から何かの事情に依つて其負擔に堪へ得ないと言つて來た場合に於ては、當然此收入も減ずると思ひますが、さう云ふ時でも此委員會は豫算に付て意見を挿むことが出来ないものでありませうか。今のあなたの御説明では一寸分り兼ねますからもう一遍……。

○常任幹事(篠崎嘉郎君) 此豫算は私はさう窮窟なものぢやないと思ひます。實際としては相當項目も變更されて然るべきものぢやないかと思ひます。それから今多少減ると云ふやうな話がありました。規定にもあります通り「概ね一萬二千圓」と云ふことになつて居ります。寄附金は或は多少殖えらう、或は多少減ることもあるだらうと云ふことで、「概ね」と云ふ字を特に附けたのであります。

○五十八番(北日本汽船株式會社社長野村治一良君) 一寸御伺致します。此日本海商業委員會の資料として戴いて居るものの中には、運賃の問題で大分吾々の實施してゐるのと相違して居る點が多々あるのですが、是れの出所を伺ひたい。それから今どなたからか御説がありました。第二の研究範圍の中で國策的とありますのは、御集りになつて居る各地の方々の利害關係が各々違つて居りますから斯うなつて居るのでありませうが、無論是は日本海を中心とする裏日本の各地方と、滿洲の各地方との

間の商業發展、或は之に伴ふ問題をどうすると云ふことの研究になるのであるが、此案に依りますると日滿最短距離の接續と云ふやうになつて居つて、意味が一つにも見えますし、二つにも見えますし、幾つにも見えますが、寧ろ「最短距離」と云ふことを御取りになつて、第一の方は日滿兩國の日本海の商業を發展せしむる方法に付て研究する、斯う云ふ風に御變になつた方が皆様に通りがいと云ふ感じを有つて居りますが、此一、二の「最短距離」と云ふのを御訂正願ひたいと思ひます。皆様に御相談を致しまして一つの提案と致します。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

○常任幹事(篠崎嘉郎君) 日本海商業委員會資料第一輯が何處から出たかと云ふ御質問に御答致します。先般御送りしました資料は、校正に少し間違があるやうでございますから、次回に發行致します時には正誤表を附けて送ります。あれは滿鐵から提供された資料でございます。

○五十八番(北日本汽船株式會社社長野村治一良君) 今滿鐵から出たと云ふことですが、大分手前味増になつて恐入りますけれども、吾々海上の運送に従事して居る者には大分相違がありますから、此次に御出しになる時には私の方に一つ申出て戴きたい。吾々船會社の方に御申込願ひまして、妥當なるものを御入れ願ひたいと思ひます。

○議長(副會長結城豊太郎君) 是は各方面から御出しを願ふやうになつて居りませうから、御遠慮なく資料を御提出して下さいと思ひます。

○十七番(富山商工會議所會頭金岡又左衛門君) 此日本海商業委員會の議事要項を拜見致しますに、日滿兩國の經濟産業の關係、又此「實施方法の原則」にもあります通り、是は一面日滿の國防上見地からも重要な意義を有して居る事業であると考へます。是は餘程の大事業であると思ひますが、先程の幹事の御報告に依ると、本委員會は明年の七月頃を以て期間とす、經費も一萬二千圓位の範圍の仕事であると云ふ御話である。是だけの大事業に向つて本會が研究を進めますには、逆も一萬二千圓位では九牛の一毛にも足らないと思ふのである。それで此一萬二千圓は各關係方面から御徴収になつたものですが、是はどうしても今日此處に御臨席になつて居ります政府其他滿鐵の有力なる筋の絶大なる御援助に俟たなければならぬと思ふのである。唯好意的の援助だけではいけない。是は物質的の御援助に俟たなければ、此目的の一端をも達成することが出来ぬと思ふのであります。それ等の方面に向つて協會の幹部の方が御諒解を得て居られますかどうか、又御交渉して居られますかどうか。まだ御交渉に著手して居られなければ、それに向つてどう云ふ御考を有つて居られますか。此事業は唯構造大にして而も經費はそれに伴はないと思ふ私の考です。之に付て協會の幹部、常務理

事、其他の幹部の御方の御意見を伺ひたいと思ひます。

○常任幹事(篠崎嘉郎君) 經費は先程來年の八月頃まで支へ得る、又其頃までに大體終了の見込であると申し上げましたが、是はほんの見込であります。必しも八月までに完了させ得るとは申し上げませぬ。もう少し仕事を進行さして見ましたならば、金もどれ位掛り、時日もどれ位掛ると云ふ見當も付くかと思ひますが、まだ始めたばかりですから、すつかり見込が立ちませぬ。來年の八月と云ふのは著手前に大體觀測をして立てた豫想でありますからして、大體計算の通りになつて完成して行けば結構だと思ひますが、どうでせうか、今少し進行させた状況に依つて、或は御相談するやうにしましては……。今此豫算を急に擴張した所でどう云ふものかと思ひますが……。

○十七番(富山商工會議所會頭金岡又左衛門君) 只今の御答で大體承知致しましたが、是は今から幹部の御方に於て深く考慮を願つて置きませぬと思ひます。やつて見て事業の推移に依つて又考へると云ふことでは、此一萬二千圓の經費も空しく、其目的の一端をも果さずして終るやうなことがあつてはいけませんから、今日から協會の幹部に於かれましては、それ等の經費の點、此事業の繼續の點等を豫想されて、今から御考究を願ひたいと思ひます。私の希望を申し上げて置きます。

○議長(副會長結城豊太郎君) 御修正案が出ますならば皆様に御諮したいと思ひますが、何か出て居

りませぬか。

○十八番(北陸汽船株式會社々長石原正太郎君) 先程も御話がありました、此委員會の議事要項案の一と二は一つにして分り易い文字で現はすやうにして戴いたらどうかと思ひます。是で見ると裏日本側に新しく特定の港を設けて、向ふの滿洲側の終點たる羅津なり、或は清津との間に一つの幹線を設けることの可否を研究するやうな風にも取られますので、若しさういふのであれば是で結構であります。さうでなく現在出來て居る羅津なり清津なりと、日本海に臨んで居る各港との間に經濟的に密接なる利用方法を研究すると云ふ意味であれば、其意味を含むやうに字句を變へて戴いたらどうかと思ひます。篠崎さんに其點を御願するのであります。

○常任幹事(篠崎嘉郎君) 一寸一つ文句を示して戴きますと……。

○十八番(北陸汽船株式會社々長石原正太郎君) 矢張日本海側にある各港の施設なり、さう云つたものを完備充實して、さうして向ふ側と經濟的に有利に利用なり、活動が出来るやうなことを研究するのだと云ふ風に……。

(「さう云ふ意味なら日本海の經濟的價値の研究及利用方法でいゝぢやないか」と呼ぶ者あり)

○一番(函館市長坂本森一君) 一寸卑見を申述べて見たいと思ひます。只今御説のありましたやうに、日本海側の或る地點と、滿洲側の或る地點とを接続する特別の地點を設けると云ふことがいゝか悪いか、是は私今明に斷言しませぬが、現状から考へて見ますと、雄基、羅津、或は清津、其何れを向ふ側の一點として考へて見ましても、それから内地並に北海道の各港に至る距離は、大抵四百哩以上五百哩と云ふ程度であつて、さう距離が違つて居ないのであります。或は十哩違つて居るとか、二十哩違つて居るとか云ふ距離にあるのであります。最短距離として數字的に言へば、或は新潟邊りが一番最短距離かも知れませんが、さう云ふものを茲に決めて接続することが經濟の一體化になると云ふことは言へない。若し其方針で新潟と羅津とを接続することを以て、經濟國策の一つとして、總てそれから出發して此商業委員會の問題を研究しようと云ふことになりますると、函館の如きは——私は函館であります——從來よりも非常な不利益を蒙ることになるのであります。羅津と函館を接続する場合に於ては、羅津と新潟とを接続する距離と殆ど變りがない、二十哩程の差もないやうに自分記憶して居りますが、それを新潟と羅津とを接続し、然る後に新潟と函館とを接続する、斯う云ふやうなことになるやうなると、距離を短縮すると云ふ事柄と非常に離れて來るのであります。それであつては面白くないと思ひます。單り函館ばかりではありませぬ。小樽の如き、青森の如き、或は更に西の方に行きまして下關と云ふやうな所、其他の地點も皆同様だらうと思ひます。是は運賃等の關

係から見まして、船で来れば十哩や二十哩の差は殆ど同じであります。一遍他の港へ接続してから、更に其港から又他の港へ移すと云ふことになりますると、非常な不便を來すのであります。折角此商業委員會で日本海の利用方法を研究なさるとすれば、一つの港になるやうな字句は寧ろ削られて、單に日本海の經濟價値の研究及び利用方法の立案と云ふことにされたならばどうであらうかと思ふのであります。隨て研究案とか研究項目等に付ても、其趣意から字句の訂正をなされば、極く簡単で分りいゝのぢやないかと思ひます。

○十三番(新潟商工會議所理事塚野俊郎君) 只今日滿最短距離接続と云ふ問題の御意見が出ましたが、私共の承知して居りますのは、内地の方の一つの港と接続する意味でないやうに考へて居るのであります。例へば今函館さんから御話がありました。函館さんの方の御立場を御覽下さつても、内地の鐵道を通つて向ふへ連絡するよりも、日本海を通つて行く場合が一番近い。内地の各港は皆それ／＼日本海を通つて行つた方が近いのだ、斯う云ふ意味に私は解釋して居るのであります。併し見方或は解釋に依りましては、只今御話のあつたやうに考へらるゝことはどうかと思ひます。先程から此點をもう少し意味の分るやうに——さう云ふ風に解釋されないやうに平たく直したらどうかと云ふ御話がありましたから、さう云ふ風に御直し下さつた方が宜からうと思ひます。唯今さう云ふ御意見も

出て居りましたから、篠崎君の方から、此日滿最短距離と云ふ意味はどう云ふ意味だと云ふことを皆様に御話して戴いたら宜からうと思ひます。同時に一と二、設置の目的並に研究の範圍に付きましては、余り固苦しい文字が使つてあると云ふ御話がありました。私も實は左様に考へましたから、是は適當にもう少し平たく分り易いやうに御直し下さつたら結構だと思ひます。

○常任幹事(篠崎嘉郎君) 御修正意見は御尤と思ひますが、日滿最短距離接続と云ふ意味は、今日の日滿連絡經路が、大連を經るもの、朝鮮を經るもの、北鮮を經るものがあります。此三つの最短距離と云ふ意味でありまして、新潟と何處とか少しでも近いと云ふ様な意味ではないのであります。唯少し固苦しい文句でありますからして、もう少し平たくするやうに御修正下さることは結構だと思ひます。

○五番(小樽商工會議所副會頭岡本康太郎君) 只今の御意見で大體分りました。併しどうしても色々な所は文章に依つて解釋される點も生ずると思ひますから、第一の「日滿最短距離」の「最短距離」の四字を削除致しまして、「日滿接続の實施に伴ふ日本海の經濟的價値の研究及利用方法立案」斯ふ云ふ風に修正をして戴きたいと思ひます。

○五十七番(日本商工會議所副理事依田信太郎君) 今の字句であります。日本海に依る日滿接続の

「經濟的價値の研究」と云ふ風に直して書いたら分り易くはないかと思ひますが……。

○議長(副會長結城豊太郎君) 「日本海に依る日滿接續の實施に伴ふ經濟的價値」斯ふ云ふ譯ですか。

○五十七番(日本商工會議所副理事依田信太郎君) さうです。

○十七番(富山商工會議所會頭金岡又左衛門君) 五番の説に賛成です。日本海の經濟的價値に於ける日滿接續の趣旨であるから、五番の御意見で宜しいと思ひます。

(「五番の説に賛成」と呼ぶ者あり)

○議長(副會長結城豊太郎君) 五番の御説は「最短距離」と云ふ四字を削除して「日滿接續の實施に伴ふ日本海」云々と云ふことでありますが、御賛成の方が大分ありますやうですが、如何です。さう致しませうか。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

○四十五番(横濱商工會議所理事園田寛君) 少し余計なことでございますが、其趣旨は結構なんですけれども、斯ふ云ふ文句のことは會長に御一任して御修正下さつたのが宜しいのぢやないですか。趣旨は能く分つて居ります。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

○議長(副會長結城豊太郎君) それでは成べく柔かい文字にして置きませう。それでは御委せ願ふことに致します。「研究の範圍」の方も同じことにして宜しうございますか。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

○五十九番(日本海汽船株式會社大西源之助君) 一寸伺ひます。此委員名簿には、新潟、富山、石川、福井、長野、山形、秋田、北海道地方竝に清津、羅津、雄基と書いてあるが、此委員會の席次表を見ますと、神戸、門司、廣島、博多と云ふ方面が書いてありますが、山陰方面の境とか松江方面は之に何等關係がないのですか。

○常任幹事(篠崎嘉郎君) 委員に入れてないのであります。

○五十八番(北日本汽船株式會社社長野村治一良君) 關係はありませぬか。

○常任幹事(篠崎嘉郎君) 無論關係のないことはありませぬ。關係のない所はないと思ひますが……。

○五十八番(北日本汽船株式會社社長野村治一良君) 山陰だけ抜けて居る。兵庫縣、島根縣、鳥取縣がない。こちらでわざと御退けになつたのですか。

○常任幹事(篠崎嘉郎君) 態と退けた譯ではありませぬ、入れた方が宜いと云ふことになれば、後で會長から追加して戴くことになつて居ります。

○五十八番(北日本汽船株式會社社長野村治一良君) 協會の方には此地方はなかつたのですか。

○常任幹事(篠崎嘉郎君) さうです。それは地方々々から、此地方も入れて呉れと云ふ御希望があつたから、後から追加致しました。

○議長(副會長結城豊太郎君) それでは一、二は御委せ願ふことにして、三の研究項目に付きまして何か御意見はありませぬか。

○五十七番(日本商工會議所副理事依田信太郎君) 一、二の字句の修正に關聯致しまして、研究項目の中にある「日滿最短距離」第四項、第六項にあります、是も御修正を願ふことを會長に一任したいと思ひます。尙ほ此研究項目で大體主要のことは盡きると思ひますが、形式上第八項を追加致しまして、「其他本會の目的を達するに必要な事項の研究」と云ふやうなことを加へて置いて戴きますと、問題の審議に伴れて是までなかつた問題の研究が必要になつた場合に適當ぢやないかと考へます。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

○議長(副會長結城豊太郎君) 五十七番の御修正に御賛成の方がありますやうですが皆様如何ですか。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

○議長(副會長結城豊太郎君) それではさう云ふ風なことに致します、其他協議方法(資料の蒐集、

研究)それから五の進言、請願、陳情、斯ふ云ふことに付て何か御意見がありますか。

○四十五番(横濱商工會議所理事園田寛君) 一寸御尋したいのですが、資料の所に「關係官廳及民間機關」とありますが、此民間機關と云ふのは何か特殊な意味があるのでせうか。或程度提出を制限するやうな意味でも含んで居るのでありますか。

○常任幹事(篠崎嘉郎君) さう云ふ意味はないのです。成べく廣い意味で他にいゝ字句はありませぬか。

○議長(副會長結城豊太郎君) どうです、「民間」なんかも要らぬやうですが……。「關係方面の提出」と云ふやうな意味で一つ適當に訂正致しませう。それでは此議事要項に付きまして、今の修正の點を能く練ることに致しまして、それで御異議ないものと見て差支ありませぬか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長は左の如く修正、十二月五日各委員に通知せり。

日本海商業委員會議事要項

一、設置ノ目的

日本海徑路日滿接續ノ實施ニ伴フ日本海ノ經濟的價值ノ研究及利用方法立案

二、研究ノ範圍

日本海徑路日滿接續ハ日滿經濟ノ一體化ヲ目的トスル我ガ對滿經濟國策ノ基本條件ヲナスモノナルヲ以テ本委員會ノ研究ハ其趣旨ニ基キ一般的意義ヲ有スル事項ニ限リ一個人又ハ一地方ノミノ利害ニ關スル事項ハ之ヲ取扱ハザルモノトス

三、研究項目

- 1 日本海經由貨物海陸運賃及附帶陸上小運送運賃其他諸掛經費ノ低減ヲ目的トスル研究
- 2 日滿物資ノ交易ヲ容易ナラシムヘキ商取引及金融機關ノ整備ニ關スル研究
- 3 同上ノ見地ニ基ツク關稅、通關手續其他之レニ附帶スル諸研究
- 4 日本海徑路日滿接續ノ實施ニ伴フ日本海（北鮮ヲ含ム）漁業及同加工業ノ發展方法ニ關スル研究
- 5 同上諸工業、就中滿洲產原料ニヨル製造工業ノ新設並ニ既設諸工業ノ發展策ニ關スル研究
- 6 日本海徑路ノ實施ニヨル既存諸制度ノ改廢又ハ新設ニ關スル研究
- 7 同上ニ伴フ物資移動徑路ノ變化並ニ新商品ノ出現ヲ促進スルコトヲ目的トスル研究
- 8 其他本會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事項ノ研究

四、協議方法

イ、資料ノ蒐集

- 一、關係各方面ノ提出ニカ、ルモノ
- 二、會員ノ提出ニカ、ルモノ
- 三、委員ノ調査ニカ、ルモノ

ロ、研究

- 一、分科委員ノ選定
- 二、専門主査ノ囑託
- 三、分科委員會
- 四、總會
- 五、進言、請願、陳情

以上

七、北鮮對日本海方面貿易振興方策

○議長(副會長結城豐太郎君) それでは御決議になつたものと認めます。次に分科規定の制定、其前に一寸御諮を致しますが、富山縣の對岸貿易拓殖振興會から御提出になつた議案が一つ届きました。それは「北鮮對日本海方面貿易振興方策に關する件」として御手許に印刷物を差上げてあります。之を御諮したいのですが、何れ分科が出来まして、そこで各方面から研究することになります。此建議案を適當な分科に廻すと云ふことにして、御研究を願ふことに致しまして如何でございますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(副會長結城豐太郎君) それではさう云ふ風に致します。

北鮮對日本海方面貿易振興方策ニ關スル件

富山縣對岸貿易拓殖振興會提出

帝國ノ權益増進ト新興滿洲國ノ開發促進ノ爲北鮮經由、日本海方面ノ港灣ヲ對照トスル貿易ノ進展ヲ焦眉ノ急トスルハ敢テ言フ要セザル所ナリ。之ガ改善ノ第一歩トシテ早急實現ヲ要スト認ムル左記三項ノ實施方ヲ本委員會ノ決議トシテ、南滿洲鐵道株式會社總裁、陸軍大臣、遞信大臣及對滿事務局

總裁ニ要望セラレムコトヲ提議ス

(一) 貨物船運賃引下

現在北鮮經由日本海沿岸港灣間ノ運賃ガ大連、大阪間ノ運賃ニ比シ四割以上ノ高率ナルヲ放任シテ日本海方面ニ貿易振興ヲ望ムハ絶對不可能ナリ同率以下ニ引下ヲ要ス

(二) 日本海方面就航船舶改善

現在日本海方面ノ貿易ニ就航ノ船舶ハ何レモ低速力ノ不良船多キヲ以テ(一)ノ實現ト相俟ツテ相當、當路ノ助成ノ下ニ快速力ノ優良船ヲ就航セシムルコト

(三) 貿易振興ニ關スル其他ノ施設改善

現在北鮮諸港及日本海沿岸各港ニ於ケル上屋、倉庫、其他ノ海陸連絡設備ノ不完全、金融及取引機關ノ不完備等何レモ船運賃引下、就航船舶ノ改善ト併行シテ之ガ擴築、改善ヲ實行スルニ非ザレバ到底眞ニ其ノ効果ヲ發揮シ得ザルベキヲ以テ早急各當路ノ考慮ヲ促シ之等各設備ノ改善、施設ノ充實ヲ必要トス

以上

○十六番(富山縣對岸貿易拓殖振興會常議員宮崎和清君) 私提出致しました團體の代表者として一寸

申して置きますが、只今御手許に御配りしてあります印刷物の題目の次に理由と云ふ文字があります
が、是は矢張理由以下の方が本題なのでありまして、理由と云ふ字句を御削を願ひます。

八、分科規定の制定

○議長(副會長結城豊太郎君) 理由を讀みますか——是は皆御手許に廻つて居るやうでございますか
ら、皆讀んで居られるだらうと思ひます。それでは分科規定を御協議を願ひたいと思ひます。三部に
分つて大體斯う云ふ風なことの研究をやつたら如何かと思つて原案を作つた譯であります。どうぞ十
分に御協議を願ひます。

日本海商業委員會分科規定(案)

第一部 日滿最短距離運輸實施方法ニ關スル件

- 一、海上運賃低減方法ニ關スル件
- 二、陸上運賃低減方法ニ關スル件
- 三、積込積卸費用ノ低減方法ニ關スル件
- 四、時間ノ短縮及確定方法ニ關スル件

第二部 日滿貿易ノ發展ヲ促進スベキ諸機關ノ改正ニ關スル件

- 一、通關手續ノ簡易化ニ關スル件
- 二、取引機關ノ新設ニ關スル件
- 三、金融機關ノ改正ニ關スル件
- 四、繫船、上屋、倉庫、其他ノ海陸連絡設備ニ關スル件

第三部 日本海沿岸ニ於ケル産業ノ振興ニ關スル件

- 一、滿洲產原料品ノ種類、品質、數量、生産原價、運賃諸掛費用ニ關スル專門的調査及研究ニ關
スル件
- 二、右原料品ノ買入拂下ゲ手續ノ簡易化方法ニ關スル件
- 三、生活必需品製造原料ノ同上及運賃諸掛リ底減ニ關スル件
- 四、日本海々産物ノ生産發展方法ニ關スル件(漁區、加工、販路擴張方法)

以 上

○二十四番(高岡商工會議所會頭室崎間平君) 此一部の「日滿最短距離運輸實施方法」是も一つ議長
に於て御修正せられることにして置いたらどうでせう。

○議長(副會長結城豊太郎君) 是も誤解のないやうに考へて直すことに致します。

○十番(新潟商工會議所會頭白勢量作君) 先程幹部の方に附託になりました「最短距離」の問題であります。是は北鮮航路に依る譯でありますから、其北鮮航路と云ふ文字を成べく挿入されんことを御願致します。

○五十七番(日本商工會議所副理事依田信太郎君) 此分科規定の細目のことは何れ三部に分れた委員會がそれ〴〵構成せられることと思ひますから、其各部の委員會で尙ほ更に適當に御決定願ふことに致しまして、第一部、第二部、第三部の分科委員會を設けると云ふことだけを此處で御決定願つた方が簡單で宜いかと思ひますが、如何でございませう。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

○議長(副會長結城豊太郎君) 中の研究項目は何れ又其分科會で増補省略することに致しまして、それちや三部に分つて斯う云ふ風なことを研究すると云ふことに致しまして御異議はありませぬか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

仍て議長は左の如く修正十二月五日各委員に通知せり。

日本海商業委員會分科規定

第一部 日本海線日滿連絡運輸實施方法ニ關スル件

- 一、海上運賃低減方法
- 二、陸上運賃低減方法
- 三、積込積卸費用ノ低減方法
- 四、時間ノ短縮ノ方法及發着日時確定ノ可否並ニ程度

第二部 日滿貿易ノ發展ヲ促進スベキ諸機關ノ改正ニ關スル件

- 一、通關手續ノ簡易化方法
- 二、取引機關ノ新設ノ要不要並新設方法
- 三、金融機關ノ改正ヲ要スル事項及其改正方法
- 四、繫船設備、上屋、倉庫、其他ノ海陸連絡設備ノ改善ノ範圍及方法

第三部 日本海沿岸ニ於ケル産業ノ振興ニ關スル件

- 一、滿洲產原料品ノ種類、品質、數量、生産原價、運賃諸掛費用ニ關スル専門的調査及研究機關設置ノ可否及方法
- 二、右原料品ノ買入拂下ケ手續ノ簡易化ヲ目的トスル方法

三、生活必需品ノ生産原料、及之レニ對スル運賃諸掛リ底減ノ方法

四、日本海海産諸業ノ發展ヲ目的トスル方法

漁場ノ増設監理、水産加工業ノ發展及統制、販路擴張、共同販賣等ニ關スル立案

九、分科委員の選任

○議長(副會長結城豊太郎君) それではさう云ふことに決定致します。分科委員を選任することになります。是は投票に依つて致しませうか。如何致しませうか。

(「會長一任に願ひます」と呼ぶ者あり)

○議長(副會長結城豊太郎君) 會長に指名方を御委任になりましたが、御異存はありませぬか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(副會長結城豊太郎君) それでは能く慎重に研究致しまして、改めて書面を以て委員の顔觸を申上げること致します。其方々で成べく早く御集りを願つて、さうして何れ委員長も互選になりますが、十分に御討議御研究を願ふことを豫め御願を致して置きます。今日は遠路態々御來會下さいまして有難ふございました。是で散會を致します。(拍手) 午後三時三十八分散會

十一月三十日日滿發第二九二號を以て議長は左の如く分科委員を推舉通告されたり。

分科委員推舉ノ件

拜啓 陳者去ル二十二日開催ノ第一回委員會ニ於テ分科委員選定ニ關シ議長一任ト相成候ニ就テハ別紙ノ通御推薦申上候條何卒御盡瘁被成下度此段御依頼旁得貴意申候 敬 具

追テ弊協會役員ニシテ委員タルモノハ何レノ分科委員會ニモ出席シ得ル様致度候條御了承置被下度候

(別紙)

第一部分科委員 (日滿接續運輸實施方法ニ關スル件)

福井商工會議所會頭	市橋保治郎氏
長野商工會議所會頭	田中彌助氏
高岡商工會議所會頭	室崎間平氏
伏木町長	堀田勝文氏
新湊町長	卯尾田毅太郎氏
東岩瀬町長	佐渡傳二氏

新瀉港振興會長	宮脇梅吉氏
山形市長	大沼保吉氏
富山商工會議所會頭	金岡又左衛門氏
函館商工會議所會頭	岡本康太郎氏
金澤商工會議所會頭	中島德太郎氏
小樽商工會議所會頭	松江仙次郎氏
新潟商工會議所會頭	白勢量作氏
直江津商工會議所會頭	高橋喜六氏
敦賀町長	森本一雄氏
雄基商工會長	中村直三郎氏
羅津商工會議所會頭	河野野九郎氏
清津商工會議所會頭	四元嘉兵次氏
北陸汽船株式會社長	石原正太郎氏
日本海汽船株式會社長	野村治一良氏

第二部分科委員(日滿貿易發展ヲ促進スベキ諸機關ノ改正ニ關スル件)

北日本汽船株式會社長	野村治一良氏
大連汽船株式會社長	安田 征氏
大阪商船株式會社長	村田省藏氏
朝鮮郵船株式會社長	森 辨次郎氏
七尾町長	春木利衛門氏
名古屋商工會議所會頭	岡谷 惣助氏
小濱町長	田中 信藏氏
秋田商工會議所會頭	辻 兵吉氏
敦賀商工會議所會頭	那須吉兵衛氏
小樽市長	板谷 宮吉氏
富山縣對岸貿易拓殖振興會長	土岐銀次郎氏
高岡市長	堀 豐氏
金澤市長	片岡 安氏

新 潟 市 長 小 柳 牧 衛 氏
福井縣對滿貿易振興調查會長 近 藤 駿 介 氏

第三部分科委員（日本海沿岸ニ於ケル産業ノ振興ニ關スル件）

松本商工會議所會頭 今 井 伍 介 氏
福 井 市 長 大 月 齋 俺 氏
神戶商工會議所會頭 岡 崎 忠 雄 氏
高田商工會議所會頭 玉 井 義 太 郎 氏
鶴岡商工會議所會頭 中 村 作 右 衛 門 氏
富 山 市 長 平 田 紀 一 氏
門司商工會議所會頭 出 光 佐 三 氏
橫濱商工會議所會頭 有 吉 忠 一 氏
函 館 市 長 坂 本 森 一 氏
大阪商工會議所會頭 森 平 兵 衛 氏
京都商工會議所會頭 田 中 博 氏

酒田商工會議所會頭 荒 木 幸 吉 氏
秋 田 市 長 鈴 木 安 孝 氏
東京商工會議所會頭 男爵 郷 誠 之 助 氏

日本海商業委員會規定

第一條 本委員會ハ日滿實業協會之ヲ主催シ、對滿事務局、農林省、商工省、鐵道省、遞信省、陸軍省、海軍省、外務省、大藏省、朝鮮總督府及滿鐵會社鐵路總局等ノ後援ヲ受ケ新潟、富山、石川、福井、長野、山形、秋田、北海道地方並ニ清津、羅津、雄基其他ニ於ケル商工會議所、市其他ノ團體ヲ以テ構成スルモノトス

第二條 本委員會ハ日本海ヲ中心トスル日滿兩國經濟關係ヲ緊密ナラシメ以テ兩國經濟ノ提携共存共榮ニ資スベク鐵道運賃、船運賃、埠頭荷役、取引所金融、稅關、漁業等ノ重要諸懸案ヲ研究討議シ其ノ實行ヲ期スルヲ目的トス

第三條 本委員會ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲メ關係各方面ヨリ資料ヲ蒐集シ之ヲ一般ニ頒分スルモノトス

第四條 本委員會ノ經費ハ日滿實業協會特別會計トシ概ネ壹萬貳千圓ヲ計上シ利害關係地方ニ於テ之ヲ分擔スルモノトス
但シ委員ノ旅費ハ本會ヨリ之ヲ支給セズ

第五條 本委員會議長ハ日滿實業協會會長之ニ當リ會長事故アルトキハ副會長之ヲ代理ス

第六條 本委員會委員ハ議長之ヲ委囑スルモノトス

第七條 本委員會ハ東京ニ於テ之ヲ開ク

但シ必要ニ依リ他ノ地方ニ於テ之ヲ開クコトアルベシ

以 上

日本海商業委員會委員 (五七名) (イロハ順)

福井商工會議所會頭	市橋保治郎氏
松本商工會議所會頭	今井伍介氏
北陸汽船株式會社社長	石原正太郎氏
小樽市市長	板谷宮吉氏
門司商工會議所會頭	出光佐三氏
七尾町長	春木利衛門氏
高岡市長	堀田勝文氏
伏木町長	堀田勝文氏
富山縣對岸貿易拓殖振興會長	土岐銀次郎氏
新潟港振興會長	宮脇梅吉氏
福井市長	大月齊俺氏
山形市長	大沼保吉氏
函館商工會議所會頭	岡本康太郎氏

名古屋商工會議所會頭	岡谷惣助氏
神戸商工會議所會頭	岡崎忠雄氏
富山商工會議所會頭	金岡又左衛門氏
金澤市長	片岡安氏
羅津商工會會長	河野九郎氏
清津商工會議所會頭	四元嘉兵次氏
小濱町長	田中信藏氏
長野商工會議所會頭	田中彌助氏
直江津商工會議所會頭	高橋喜六氏
高田商工會議所會頭	玉井義太郎氏
秋田商工會議所會頭	辻兵吉氏
金澤商工會議所會頭	中島德太郎氏
敦賀商工會議所會頭	那須吉兵衛氏
鶴岡商工會議所會頭	中村作右衛門氏

雄基商工會 會長	中村直三郎氏
高岡商工會議所 會頭	室崎間平氏
大阪商船株式會社 社長	村田省藏氏
新湊町 長	卯尾田毅太郎氏
富山市 長	平田紀一氏
北日本汽船株式會社 社長	野村治一良氏
日本海汽船株式會社 社長	野村治一良氏
大連汽船株式會社 社長	安田 柁氏
小樽商工會議所 會頭	松江仙次郎氏
新潟市 長	小柳牧衛氏
福井縣對滿貿易振興調查會長	近藤駿介氏
東京商工會議所 會頭	男爵 郷誠之助氏
酒田商工會議所 會頭	荒木幸吉氏
橫濱商工會議所 會頭	有吉忠一氏

東岩瀬町 長	佐渡傳二氏
函館市 長	坂本森一氏
新潟商工會議所 會頭	白勢量作氏
敦賀町 長	森本一雄氏
朝鮮郵船株式會社 社長	森辨次郎氏
大阪商工會議所 會頭	森平兵衛氏
秋田市 長	鈴木安孝氏
京都商工會議所 會頭	田中博氏
本協會 會長	男爵 郷誠之助氏
本協會 副會長	結城豐太郎氏
本協會 副會長	森平兵衛氏
本協會 常務理事	中野金次郎氏
本協會 常務理事	片岡安氏
本協會 常務理事	築島信司氏

本協會常務理事
本協會監事

賀田直次氏
中川正左氏
以上

四八

昭和十年度 自昭和十年十月至同十一年三月 日本海商業委員會特別會計收入預算

收入之部

科 目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較増△減	備 考
第一款 寄附金	一一、〇〇〇〇〇	〇	一一、〇〇〇〇〇	滿鮮地方關係 北滿鐵道 新山湯 富山縣 石川縣 長野縣 山形縣 秋田縣 北海道
第二款 雜收入	六〇〇〇	〇	六〇〇〇	
第一款 預金利息	五〇〇	〇	五〇〇	
第二款 雜收入	一〇〇	〇	一〇〇	
合 計	一二、〇六〇〇〇	〇	一二、〇六〇〇〇	

支出之部

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較増△減	備考
第一款 給與費	四、四〇〇〇	〇	四、四〇〇〇	
第二款 旅費	二、〇〇〇〇	〇	二、〇〇〇〇	
第三款 印刷費	一、四〇〇〇	〇	一、四〇〇〇	
第四款 調査費	二、〇〇〇〇	〇	二、〇〇〇〇	
第五款 會議費	一、二〇〇〇	〇	一、二〇〇〇	
第六款 雜費	八〇〇〇	〇	八〇〇〇	
第七款 豫備費	二六〇〇	〇	二六〇〇	
合計	一三、〇六〇〇	〇	一三、〇六〇〇	

昭和十年十二月廿三日印刷納本（非賣品）
 昭和十年十二月廿七日發行
 編輯兼發行人 篠崎嘉郎
 東京市中野區住吉町五六
 印刷所 第一印刷所
 東京市京橋區淺野町二丁目十六番地
 印刷人 篠倉政一
 發行所 日滿實業協會
 東京市豊町區丸の内三丁目十四番地
 電話 丸の内(三)五〇六一番
 振替貯金口座東京四五八〇二番

